



© 村田行

世界自然遺産リスト記載登録推薦の取下げと再推薦

2018年5月、世界自然遺産の諮問機関であるIUCN（国際自然連合）は、日本政府の「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」の世界自然遺産リスト記載推薦に対して行った現地調査の結果をまとめた報告書をユネスコに提出しました。IUCNは、報告書の中で西表島について「北部の河川及び北東部の重要河川の推薦地への編入」の必要性を指摘したほか、観光利用について「現在においても重大な危機」と指摘し、「収容限界を定めた包括的な観光管理計画の策定」を求めました。このIUCNの指摘はJTEFがIUCNに提出した2つの意見書「イリオモテヤマネコの保全からみた西表島の推薦に対する意見」、「西表島で導入されるべき包括的な観光利用の管理について」で指摘した内容に沿ったものと言えます。

この報告を受け、日本政府は推薦書を一旦取り下げました。その後、竹富町への支援事業で自主ルールを検討していた沖縄県は方針転換をし、現在、西表島のオーバーツーリズム対策として竹富町が制定を目指す条例の支援に動き始めました。

一方、日本政府は、2020年夏の世界遺産委員会における世界自然遺産リストへの記載登録を目指し、2019年2月1日までに改定した推薦書を再提出しました。ようやく検討が始まった法的拘束力のあるルールづくりが、世界遺産効果による観光客の大量流入に間に合うのかどうか、これからの1年間がまさに正念場となります。JTEF西表島支部やまねこパトロールは、オーバーツーリズムがヤマネコの生息をさらにおびやかすことのないよう、引き続き関係機関に働きかけを行っていきます。

目次	巻頭言 … 1
	イリオモテヤマネコの 保全をめぐる動き2017 … 2
	2017年度 事業の概要と収支報告 … 3
	2017年度 事業報告（生息地支援）… 4・5
	2017年度 事業報告（普及啓発イベント）… 6
	2018年 事業計画と予算 … 7
	事務局日誌 / イベント・カレンダー … 8

●イリオモテヤマネコの生息状況

2018年3月18日に竹富町離島振興総合センターで開催された「イリオモテヤマネコ保護増殖検討会」で2017年の生息状況が報告されました。これはイリオモテヤマネコが高い密度で生息し、人為的な改変も多い西表島の沿岸低地部の生息状況と変化を継続的にモニタリングしている環境省の調査結果をまとめたものです。

自動撮影モニタリングによる総確認個体数はオス35、メス13、不明個体5個体の53個体となりました。また2005年以降、メスの生息が確認できなかった大富前良地区の北側で新規メス2個体が確認され、29のモニタリングポイント全ての地区でオス、メスが確認されました。なわばり的な行動圏を持つイリオモテヤマネコの場合、そこにいたメスが死亡すると、すぐに別のメスがその行動圏を利用し、これまでメスの行動圏を自分の行動圏の内に取り込んでいたオスも引き続きその場にとどまる、というのが健全な姿です。その意味で、今回のモニタリング結果は好ましいものだったと言えます。

●イリオモテヤマネコの目撃情報

2017年のイリオモテヤマネコの目撃情報件数は369件と5年連続で300件を超える目撃が続いています。また、繰り返し路上に出没する「特定個体」の目撃情報が119件と多く、その内、幼獣や親子の目撃が63件と昨年同様に半数以上を占めており、引き続き道路馴れの傾向も現れています。東部地区では、集落まわり(大原、豊原)で幼獣、親子連れの目撃情報も寄せられました。



年間目撃件数の推移
出展：平成30年度イリオモテヤマネコ保護増殖検討会配布資料

●イリオモテヤマネコの交通事故

2018年は年始から交通事故が相次ぎ、年間交通事故件数9件と、2016年の年間7件を2件も上回る過去最悪の年となりました。西部地区での事故多発傾向も続いており、5月16日(高那)と9月5日(野原)を除いた7件が西部地区で発生しています。

5月4日に中野で事故に遭い死亡したメスの仔2頭(オス、メス)が事故後現場付近で衰弱した状態で発見されましたが、2頭とも無事野生復帰しています。また、12月12日に祖納で事故に遭った個体も12月23日には野生復帰しています。

2018年に確認されたイリオモテヤマネコの交通事故					
年	確認月日	性別	年齢・特徴	区間	
2018	1/23	オス	成獣	浦内/第二浦内橋付近	死体回収
	4/26	オス	成獣	上原/共和産業前	死体回収
	5/4	メス	成獣(子育て中)	中野/住吉牧場付近	死体回収
	5/16	不明	成獣(白骨死体)	高那/サキング橋付近	死体回収
	6/28	不明	成獣	浦内/クール工房付近	逃亡
	9/5	オス	成獣	野原	死体回収
	10/29	不明	成獣	大見謝	逃亡
	12/5	オス	幼獣	浦内/フカンタ	死体回収
	12/12	メス	成獣	祖納/与那田橋西	野生復帰



出典：環境省記者発表資料、保護増殖検討会資料、八重山毎日新聞記事



[事業の概要]

▶ **生息地支援**

[イリオモテヤマネコ生息地保全プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：
534,044円（550,000円）

直轄事業

【目的】

西表島低地部におけるイリオモテヤマネコ生息地の保全

【概要】

- ・西表島低地部の土地利用に際して生息地保全のために配慮すべきことを調査し、関係機関へ提言する。
- ・ヤマネコを含む絶滅危惧種の回復を中心とした、生物多様性保全のための法制度を関係機関へ提言する。

[ヤマネコのいる暮らし授業]

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：
710,151円（500,000円）

直轄事業（本部&西表島支部やまねこパトロール）

【目的】

西表島で、イリオモテヤマネコ／西表島の自然との「共存」を受け入れるだけでなく、一人一人が「共存」を日常の生活の中で意識し行動するような社会をめざす

【概要】

西表島の子どもたちに、小中学校の場でヤマネコの生態と社会を踏まえ、ヤマネコの立場に立って島の暮らしのあり方について学ぶ機会を提供する。大人への波及効果も重視する。そのためには、現場の教員が主体となった授業実践、学校側が組織的にそれを支える仕組み作りを促すことが必要である。そこで、以下の活動を行う。

- ・現場教員が本授業の意義とそれを実践する技能・工夫を身に着ける教員研修会の実施。
- ・教員の授業実践に関する相談、資料提供等の協力。
- ・各校が教員の授業を受け入れる環境整備。そのため教育委員会が研修会を公式行事化するようはたらきかける。
- ・教員による授業とは別に、必要に応じた出張授業の実施。

[交通事故防止対策]

人件費を除く支援額その他経費（予算額）：
1,293,011円（1,140,000円）

直轄事業（西表島支部やまねこパトロール）

【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止

【概要】

- ・地元の人々の自発的な協力のもとに、夜間、目撃多発地点をパトロールする。
- ・西表島の地元の人々、観光客に対して、ヤマネコの交通事故防止について普及する。

[イリオモテヤマネコの日事業 / JTEF西表島支部「やまねこパトロール」運営]

支出額（予算額）：3,775,254円（3,340,000円）

直轄事業（本部&西表島支部やまねこパトロール）

【目的】

イリオモテヤマネコの交通事故防止、イリオモテヤマネコの生息地に悪影響を与える、土地利用・観光客の活動の防止、イリオモテヤマネコの生活をかく乱する観察・撮影の防止

【概要】

- ・西表島の地域住民を対象としたシンポジウムの開催、観光客に対する教育普及ツールの開発
- ・普及等の教育普及活動を行う

*活動の一部は、セブン・イレブン記念財団およびバタゴニアから助成を得て実施しました。

▶ **保全教育・普及**・・・6、8頁参照

▶ **チャリティー・イベントの開催**・・・6、8頁参照

▶ **会報発行**・・・年次報告書（2018年2月）、保護基金通信（2018年6月、10月）、メール・マガジン（3回）、ウェブサイト運営

[決算報告]

* **イリオモテヤマネコ保護基金 JTEF2017年度決算**（2017年11月1日～2018年10月31日）

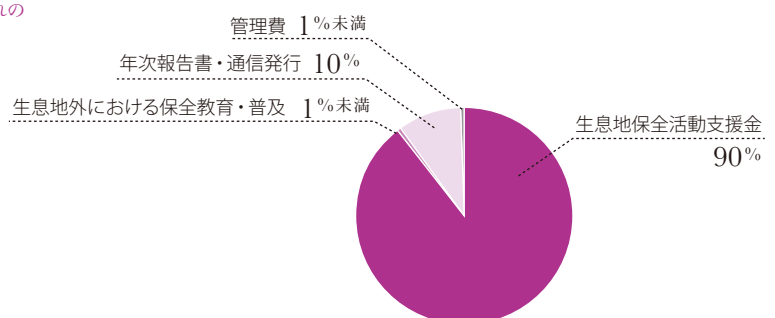
収益

	単位：円
正会員年会費	0
寄附金	2,233,240
助成金（セブン・イレブン記念財団 及び バタゴニア）	1,684,350
受取利息・為替差益	0
合計	3,917,590

費用

	単位：円
生息地保全活動支援金	6,312,460
生息地外における保全教育・普及	31,814
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	677,980
管理費（人件費・水道光熱費・消耗品費、その他）	22,063
合計	7,044,317

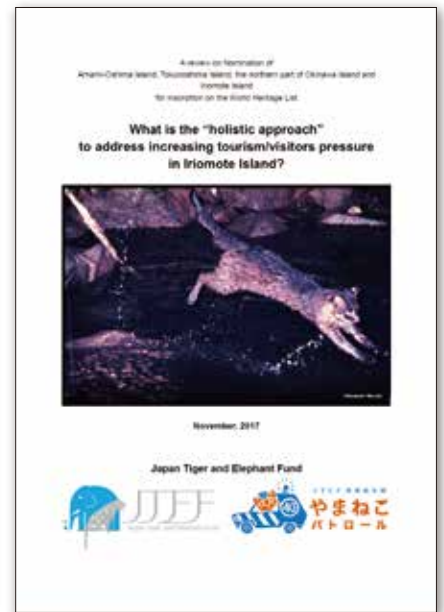
※共通の収益は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支状況を考慮して適正に配分しています。



イリオモテヤマネコ生息地 保全プロジェクト

世界自然遺産登録に伴うオーバーツーリズムを予防すべく、観光利用の管理に向けた活動を行っています。世界自然遺産推薦にともなうIUCNの現地調査後のタイミングで、9月に提出した「イリオモテヤマネコの保全からみた西表島の推薦に対する意見」(英文35項)につづき、新たな意見書「西表島で導入されるべき包括的な観光利用の管理について」(英文32項)を作成しIUCNへ提出しました。

竹富町は現在、IUCNから指摘を受けた包括的な観光管理の実現に向けて、フィールドへの立ち入り制限と行為規制、急増するエコツアーガイドの登録制度、イリオモテヤマネコの人慣れ防止や事故対策を目的とした「西表島等特定自然観光資源保護条例(仮称)」、「竹富町観光案内人条例(仮称)」、「イリオモテヤマネコ交通事故対策条例(仮称)」の3つの条例制定に向けて動き始めています。JTEFやまねこパトロールはこれら3条例の十分な実効性を確保すべく、竹富町および関係機関に働きかけを行いました。



交通事故防止対策

夜間パトロール

JTEF西表島支部やまねこパトロールは、イリオモテヤマネコの交通事故防止を目的とした夜間パトロールを通年で実施しています。西表島の東部、西部に地元の人々からなるパトロールチームを編成し、イリオモテヤマネコを路上に誘引する原因ともなるカエルやヘビなど小動物の死体を除去しながら、交通調査(交通量とスピード調査)を実施しています。

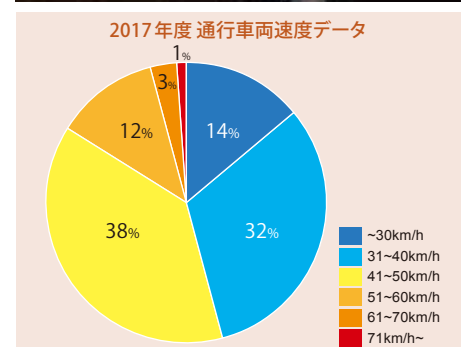
2017年度(2017年4月～2018年3月)は121回の夜間パトロールを実施し、27回ヤマネコに遭遇し、9件の目撃情報の提供を受けました。また、9月5日のパトロールではイリオモテヤマネコの交通事故の現場に遭遇し、ドライバーから事故状況の聴取を行ったほか、地域の方から事故発生の連絡を受け、事故の現場に立ち会うことが2度ありました。

夜間交通調査では1,467台の速度を計測し、3月には環境省のイリオモテヤマネコ保護増殖検討会では調査結果を発表するとともに意見を述べました。

2017年度の平均速度は過去最低だった2016年度とほぼ同じ42kmとなりました。平均速度を年度ごとに比較すると、特に60km/h以上の高速度帯の台数が年々減少しています。

地域住民からやまねこパトロールへの目撃情報の提供や、事故発生時の連絡も増え、地域に少しずつヤマネコを見守るムードが形成されつつあるといえます。

しかしながら、2018年は過去最悪となる9頭の子猫が輪禍にあいました。特に、2015年ころから西部地区(船浦～白浜)での交通事故が増加している傾向にあることから、今後はさらに西部地区のパトロール実施体制強化が課題です。



ヤマネコのいるくらし授業

出張授業

今年度は、2018年6月26日に大原中学校で行いました。授業は2時間構成で実施し、1校時目で世界自然遺産の仕組みと、日本で最初に世界自然遺産に登録された屋久島で直面しているウミガメ観察のオーバーツーリズムについて講義を行い、2校時目では、西表島でどのような取り組みが必要かグループディスカッションを行いました。



イリオモテヤマネコ学習現地監修会

今回で3回目となるヤマネコ研修会を7月26日に東部、7月27日に西部で開催し、東部2校6名、西部2校5名の参加がありました。今年も昨年に引き続き一日研修で行い、午前中はヤマネコの生息地でのフィールドワーク、午後からは帝京大学大学院教職研究科の三石初雄教授の講義が行われ、参加して頂いた先生方に授業案を発表して頂きました。また昨年度、授業を実践して下さった上原小学校の池村久美先生に昨年度の授業構成などについてお話しして頂きました。



イリオモテヤマネコの日（4月15日）事業

2018年4月15日第3回イリオモテヤマネコの日に、西表島で記念シンポジウム「屋久島が教える、西表島が今すべきこと」を開催しました。今回は屋久島で長年ウミガメの保護活動を行っているNPO法人うみがめ館の大牟田一美代表をお招きし、国内で世界自然遺産第一号となった屋久島の事例について、対談方式でお話を伺いました。

大牟田代表は、屋久島が1993年に世界自然遺産に登録されたことから、徐々に観光資源としてウミガメの産卵地が利用されるようになり、踏み荒らしなどの影響でウミガメの卵の負荷率の低下などの問題が起こったことや、その後の対策として検討された法的拘束力のある立ち入り制限と行為規制が、屋久島町議会で否決された経緯についてお話されました。

大牟田代表は、西表島の世界自然遺産推薦について「屋久島以上に観光客がくる可能性があり事業者数が増えた後は合意形成が難しくなる。今のうちに法的拘束力のあるルールを策定しないと、屋久島の二の舞になりかねない。」とコメントし、遺産登録前に観光対策をすることの重要性を訴えました。

また、石垣港（離島ターミナル）では、4月15日から月末まで、ヤマネコの保護と交通事故防止を訴えるパネル展示を竹富町と共催で行いました。



2018年4月18日付八重山毎日新聞



パネル展示（石垣港）

2017年12月5日～27日
パネル展「森を創り支えるトラ、ゾウ、ヤマネコ」
 @バン・オ・スリール(渋谷 オーガニックパン屋さん)



フェアウッドパートナーズのご協力で田中豊美さんの森を創るトラやゾウの絵を展示。ワークショップでは中村亜矢子さんと「運がつく!ぞうUNペーパーでメッセージカード」を作りました。

2018年4月21、22日
アースディ東京2018
 @代々木公園



象牙国内市場閉鎖に向けた署名活動、パネル展示、動物のマグネット作りワークショップ。ボランティアも参加者も大勢で賑わいました。

2018年8月12日
世界ゾウの日
 @上野動物園



アジアゾウが生息地間を移動できるようグリーンベルトの森を守り、アフリカゾウの密猟を無くするため象牙市場を閉鎖する活動を紹介しました。

2018年1月6日～8日
「こんにちは!シャンシャンまつり」
 @上野公園イベント広場



象牙のハンコにNO!という「ぞうとの約束」キャンペーン。前上野動物園長にハンコを押して賛同していただきました!

2018年6月2日
JTEFを支えるチャリティーパーティー2018
 @恵比寿ピアステーション



「JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会」によりチャリティーパーティー開催。アンジェラ・ラガさんの楽しいライブで大盛り上がりでした。

2018年10月6日
ゾウとサイを守るグローバルマーチ
 @上野イベント広場



上野公園に200人が集結。1時間かけて園内を一周してゾウやサイの保護を呼びかけました。

2018年2月10日
「やまねこマラソン」
 @西表島



「マラソンは飛ばしても車はゆっくりね」のスローガン、やまねこパトロールTシャツでヤマネコチームが今年も頑張りました!

2018年6月30日
「命をつなぐ Arai Harumi(新井晴み)xJTEF presents エリカ」
 @JTEF事務局



いつもご協力いただいている女優の新井晴みさんのシナリオ朗読。子を思う母、家族の愛情の深さはゾウの群れにもつながるものがあります。

2018年10月13、14日
ディワリ・in横浜2018
 @山下公園(横浜)



奥深いインド文化を楽しめる山下公園でのインドフェスティバル。JTEFはインドの森にいるトラやゾウの現状、保護活動を伝えました。

2018年2月23日
「瀬木貴将 Talk&Live SEGI x JTEF」
 @JTEF事務局



サンポーニヤ奏者瀬木貴将さんのご協力でJTEF事務局で行われたTALK & LIVE。アフリカの大自然、動物たちに会いに行きたくなりました。

2018年7月18日
「アメリカのパークレンジャー リサさんのトーク」
 @JTEF事務局



来日中のフロリダ・ビッグサイプレス国立保護区で環境教育を行っているリサさん。色々と参考になるお話を伺いました。

2018年10月27日
ヤマネコ祭り2018
 @井の頭自然文化園



ツシマヤマネコを飼育している井の頭動物園。イリオモテヤマネコも毎年参加させていただいています。クイズも楽しんでいただきました。

2018年度事業計画

□ 交通事故が相次いでいる西部地区のパトロール員を増員し、定期的なパトロール実施体勢を構築します。また、地元の子どもたち・学校と協力し、子どもから大人へのヤマネコに優しい安全運転の訴えかけを行っていきます。



□ 竹富町教育委員会と共催で毎年行っているイリオモテヤマネコ学習現地研修会を今年も東部、西部で開催します。また、研修を受けた先生方が実際に「ヤマネコのいる暮らし授業」に取り組めるよう、必要な支援を行っていきます。



□ 日本政府は、既に2019年1月中にユネスコへ推薦書を再提出し、2019年夏にIUCNの再調査を受け、2020年夏に開催予定の世界遺産委員会で登録を受けることを想定しています。現在、竹富町は世界自然遺産登録後の観光管理対策として3つの条例制定に向けて作業を開始していますが、JTEF西表島支部やまねこパトロールは、この3条例が西表島の実情に即し、十分な実効性を持ったものになるよう必要な働きかけを行っていきます。



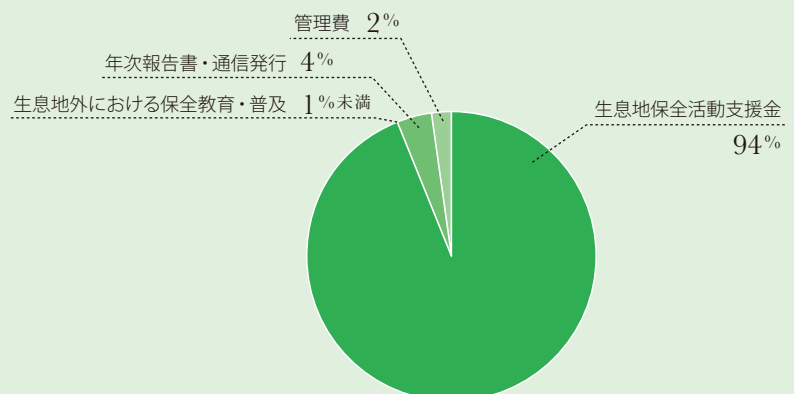
イリオモテヤマネコ保護基金 JTEF2018年度予算 (2018年11月1日～2019年10月31日)

予算：収益

正会員年会費	0
寄附金	2,482,800
助成金	3,500,000
合計	5,982,800

予算：費用

生息地保全活動支援金	5,640,000
生息地外における保全教育・普及	2,000
保全に関する政策提言	0
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	217,900
管理費(人件費・水道光熱費・消耗品費、その他)	122,900
合計	5,982,800



※共通の収益および費用は、それぞれの予算を考慮して適正に配分しています。

- November 2017**
11.27~12.1 ワシントン条約常設委員会参加(ジュネーブ)
- December**
12.5~27 「リ・オ・ス・リール」にて田中豊美展覧会開催(渋谷区)
12.9 象のUNKO elephant paperとワークショップ開催(渋谷区)
12.17 うえのトラ大使ワークショップ(上野動物園)
12.21 JWCS主催常設委員会報告会で報告(渋谷区)
12.25 野生生物保全教育研究会(事務局)
- January 2018**
1.6~7 「こんにちは!ジャンジャンまつり」にブース出展(上野公園)
1.20 うえのトラ大使学校授業(台東区立上野小学校)
1.20 理事会・総会・交流会(事務局)
1.21 野生生物保全教育研究会(事務局)
1.29~31 象牙問題国際ワークショップ参加(北京)
- February**
2.9 やまねこマラソン大会参加・ブース出展(西表島)
2.12 沖縄県主催「西表島らしい世界自然遺産のあり方」フォーラムで登壇(西表島)
2.17 うえのトラ大使学校授業(台東区立忍丘小学校)
2.23 瀬木貴将チャリティーコンサート開催(事務局)
- March**
3.11 うえのトラ大使卒業式(上野動物園)
3.17 世界自然遺産科学委員会 沖縄ワーキンググループ傍聴(西表島)
3.18 環境省イリオモテヤマネコ保護増殖検討会参加(西表島)

- April**
4.7 白梅さくらまつりにブース展示(世田谷区)
4.15 イリオモテヤマネコ発見50年モニュメント落成式に出席(西表島)
4.15 「イリオモテヤマネコの日」記念シンポジウム開催(西表島)
4.21,22 アースデイ東京2018にブース出展(代々木公園)
4.22 八重山郷友会連合会総会に参加(北区)
- May**
5.11~16 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)
5.26 野生生物保全教育研究会(事務局)
5.27 ソロプチミスト・バザーにブース出展(狛江市)
- June**
6.2 チャリティー・パーティー開催(渋谷区)
6.7 世界自然遺産候補地地域連絡会議
平成30年度第1回西表島部会出席(西表島)
6.10 西表島郷友会総会参加(川崎市)
6.26 大原中学校ヤマネコのいるくらし授業(西表島)
6.30 新井晴みチャリティー朗読会開催(事務局)
- July**
7.2~5 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)
7.22 講演「牙牙物語」とJTEF活動紹介(北海道東川町)
7.25 ヤマネコのいるくらし授業教員研修会(西表島東部)
7.26 ヤマネコのいるくらし授業教員研修会(西表島西部)

- August**
8.1~2 沖縄県エコツーリズム推進体制構築事業WG出席(西表島)
8.12 世界ゾウの日にブース出展(上野動物園)
8.13~17 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)
8.23 野生生物保全教育研究会(事務局)
- September**
9.6 世界自然遺産候補地地域連絡会議 平成30年度第2回西表島部会出席(西表島)
9.9 しかあざ会(八重山の郷友会の一つ)総会参加(北区)
9.14 野生生物保全教育研究会(事務局)
9.29~30 ナマステ・インディア2017ブース出展(代々木公園)
- October**
10.1~5 ワシントン条約常設委員会参加(ソチ)
10.6 ソウとサイを守るグローバルマーチにブース出展(上野公園)
10.11 EIA 象牙ハンコ店調査記者発表(事務局)
10.13~14 ディワリ・イン・ヨコハマ2018にブース出展(横浜山下公園)
10.25 常設委員会報告会をJWCSと共催(渋谷区)
10.27 ヤマネコ祭2018にブース出展(井の頭自然文化園)

Media

-JTEFやそのパートナーの活動/コメントが掲載されました-

- 2017年11月21日_象牙取引、大手相次ぎ撤退 メルカリ・楽天…国際的な動向受け 「NPO法人トラ・ゾウ保護基金」の坂元雅行事務局長は「市場閉鎖は政府がリードすべきものだが、大手の事業者が撤退することで市場は確実になくなっていくだろう」と話す。
- 11月19日_東京新聞:象牙取引、日本を名指し批判 生息4カ国が国際委に議案 「議案について、NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」事務局長の坂元雅行弁護士は「日本の主張は国際社会の潮流に反している。他国から厳しい目で見られるのは当然だ」と説明する。」
- 12月3日_河北新報:捕鯨、象牙日本批判相次ぐ ワシントン条約委員会開催 「NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」事務局長の坂元雅行弁護士は「条約締結国会議が各国に国内市場の閉鎖を求める決議を採択しているのに、日本だけを例外とする独自解釈が国際的に受け入れられるはずがない。今の規制のままでは今後も厳しい批判を受けるだろう」と指摘した。」
- 12月4日_東京新聞:象牙取引日本に抜け穴 ワシントン条約委員会批判相次ぐ トラ・ゾウ保護基金は、環境省の「登録キャンペーン」について象牙業者の在庫を潤そうというもくろみだと酷評。
- 2018年1月27日_名古屋CBCラジオ:今週のココ掘れニュース 象牙取引、日本の現状 NPO法人トラ・ゾウ保護基金:「ゾウが毎年2万頭も殺されるのはなぜか、それは買う人がいるから。自分たちがゾウを守るために密猟と戦っているのに、条約の決議を無視してまでも象牙販売を続けている。そんな日本に行動が求められるのは当然だと思います。」Bloomberg
- 2月14日_八重山毎日新聞:自然と共生、地域づくり確認 西表島の世界自然遺産登録 有識者らが対策討議 「エコツアーの拡大でオーバーユースによって自然環境の悪化が懸念される中、やまねこパトロールの高山事務局長は「現在、島内にある2つのエコツアールールは法的拘束力がなく、規制されるエリアも限られている」と限界を示し、条例に基づいた島全域が対象のルール作りの必要性を強調。」
- 3月2日_The Times of India:Tipshwar frontline staff gets lessons in man-animal conflict management 「(トラと人とのトラブルを防止する)このプロジェクトは、インド野生生物トラスト(WILD)が、トラ・保護基金(JTEF)の支援を受けて実施している。」
- 4月18日_八重山毎日新聞:屋久島の二の舞になる西表島の世界自然遺産登録 総量規制の導入が重要 JTEF西表島支部やまねこパトロール主催の第3回記念シンポジウム「屋久島が教える、西表島が今すべきこと」のわいわいホールで開催された。」
- 5月5日_朝日新聞:自然保護「宿題ももらった」奄美・沖繩登録延期 「西表島でイリオモテヤマネコの保護に携わるNPO法人「トラ・ゾウ保護基金」職員の高山雄介さんは、勧告が「適切な観光管理」などに言及した点に注目。島では観光客の増加でヤマネコの交通事故死などの影響が出ているためだ。「観光客の総量規制を求めている」と理解できる。政府や地元自治体は直ちに対策を行う必要がある」と話した。」
- 5月26日_静岡新聞:ヤマネコ輪禍対策 世界遺産延期を好機に 「『トラ・ゾウ保護基金』の戸川久美さんは、「登録延期勧告で時間をもらったと考え、地元の人々と一緒に効果的な交通事故防止対策をまとめた。登録はそれからも遅くはない」と話している。」
- 5月30日_WEBRONZA-朝日新聞社の言論サイト:観光客の制限を求められた奄美・沖繩 「島でイリオモテヤマネコの保護に携わるNPO法人「トラ・ゾウ保護基金」の高山雄介さんは「ヤマネコが車や人の存在に慣れ、道路上でひかれた別の動物を食べたり、道路近くで餌をとったりすることが増えている」と指摘されている」と話す。」
- 6月2日_八重山毎日新聞:自然保全機運の低下を警戒 モニタリングの開始を訴え 「JTEF西表島支部やまねこパトロール高山事務局長は「自然環境の変化を追い、各フィールドの収容力と観光事業者の実態を正確に把握すること。どれだけの人を受け入れられるかを設定することは、住民の生活を守ることにつながる」と話す。」
- 6月8日_東京新聞:あの人に迫る 坂元雅行 「トラ・ゾウ保護基金」事務局長 「象牙の印鑑が本格的に出回ったのは、昭和三十年代の終わりから四十年代以降です。最も聖なる素材である象牙の実印を書類に押せば家財が失われるなどと言った。訪問販売とも結び付き、象牙印の全国への普及に一役買いました。つまり「伝統」とは縁のない話です。」
- 6月25日_Bloomberg Environment, Environment & Energy Report:Japan's New Ivory Trade Rules Lack Adequate Teeth, Critics Say 「坂元は、改正された法律を機能させるには、規制の抜け穴を防ぐことが必須だという立場に立つ。」
- 9月20日_本経済新聞:象牙の密輸出国ニッポン 国内取引が「抜け穴」に 「NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」は8月、印鑑の材料として使う象牙を扱っている東京都内の複数の店を対象に覆面調査を実施した。」
- 9月24日_NATIONAL GEOGRAPHIC: How Japan Undermines Efforts to Stop the Illegal Ivory Trade 「『過去の歴史を見れば、ゾウを絶滅に追いやることのない程度に取引を管理しようとしても無理なのは明らかです。』坂元雅行、トラ・ゾウ保護基金(JTEF)。」
- 10月15日_朝日新聞:海外送付は違法の象牙印鑑、店の6割「売る」覆面調査 「調査結果を、野生生物保護に取り組む国際NGO「環境調査エージェンシー(EIA)」がまとめた。象牙の需要がなくなり、国際的なゾウ保護の取り組みを阻害していると訴えている。」
- 10月27日_日本経済新聞:象牙の印鑑「扱いません」 海外の視線厳しく 「NPO法人「トラ・ゾウ保護基金」(東京・港)の坂元雅行弁護士によると、1970～80年代に印鑑と運勢を結びつける『印相商法』が流行。『神聖な獣であるゾウの牙を用いると運気が上がる』などとされ、象牙の印鑑が大衆化した。」

イベントカレンダー

2019

「Spring Love 春風 2019」

JTEF ブース出展
KeenFest (東京・代々木公園)
3月30日(土) 12:00 ~ 18:00頃
31日(日) 10:00 ~ 18:00頃

4月20日(土)21日(日)
アースデイ東京
2019
JTEF ブース出展
(東京・代々木公園)

4月14日(日) (西表島・大原) 4月15日(月) (西表島・上原)
19:00 ~ (予定) 19:00 ~ (予定)
イリオモテヤマネコの日 記念シンポジウム

7月6日(土) 18:00-20:00
JTEFを支えるチャリティーパーティー
(東京・ビヤステーション恵比寿)

JTEFのウェブサイトをリニューアルしました!
情報充実+スマホ対応+オンラインでのご寄附も便利に。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

★年間サポーター費・随時寄附のお支払方法★
JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単にご寄附いただけます。www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
ゆうちょ銀行：口座番号)00170-7-355897 加入者名)トラ・ゾウ保護基金

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、
確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます
2018年1月1日以降2018年12月31日の間にいただいた年間サポート寄附と随時の寄附は、合計で2,000円を超えると平成30年分の所得税の控除申告ができます。ぜひご活用ください。
確定申告の受付は2019年(平成31年)3月15日(金)まで。お忘れなく!



〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-5-4 末広ビル 3F
Tel : 03-3595-8088 Fax : 03-3595-8090
E-mail : hogokikin@jtef.jp URL : www.jtef.jp
郵便振替口座 : ゆうちょ銀行 口座番号)00170-7-355897
加入者名)トラ・ゾウ保護基金

イリオモテヤマネコ保護基金 年次報告書 vol.9
2019年2月28日発行
発行人: 戸川久美 編集: 高山雄介
レイアウト: 土肥優子